

わたしの証人

シリーズ～弟子道～

2011/6/5

使徒言行録1章3～9節

イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。」

使徒言行録1章3～9節

さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。

復活し、弟子たちに現れたイエス様

- 「苦難を受けた」とは、十字架に掛けられ、死なれたこと
 - 弟子たちはイエス様の死を確認した
 - しかしイエス様は3日目に＜新しい体をもって＞復活し、弟子たちに現れた
 - 「自分が生きていることを、数多くの証拠を持って示し」
 - 「四十日にわたって彼らに現れ」
 - 「神の国について話された」「食事を共に」した
-

イエス様の命令と弟子の反応

- エルサレムを離れず、父の約束を待つ
 - 父の約束とは「聖霊による洗礼(バプテスマ)」である
 - 聖霊による洗礼をエルサレムで待ちなさい
 - あいかわらず愚かな弟子たち
 - 「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた
 - イエス様は「**神の国**」を建ててるために、死んで復活されたのに、弟子たちは「**人の国**」を求めた
 - イエス様はその可能性も否定されなかった
-

聖霊が降り、わたしの証人となる

- 聖霊が降ると、イエス様の証人となる「力」が与えられる
 - 弟子たちが自分の「力」でなるのではない
- 「地の果てに至るまで、わたしの証人となる」とは
 - 弟子たちが証人として地の果てまで行く
 - 地の果てまで、つまり世界中に証人が生まれる
- イエス様の約束の不思議
 - 「わたしの教えを広めなさい」とは言わなかった
 - イエス様自身を証言するようになる、と言われた

「わたしの証人となる」とは

- 証人とは
 - 自ら目撃・体験したことを証言する人のこと
- 「わたしの証人」とはイエス様を目撃・体験したことを証言する, という意味となる
 - 体験していないことは証言できない!
 - 聖霊によって復活したイエス様を体験することにより
- 「証人」という言葉は後に「殉教者」という意味を持つようになる
 - “martus”(ギリシャ語「殉教者」)→“Martyr”(英語「殉教者」)

「わたしの証人となるため」に

- 聖霊によって、生きたイエス様を体験する
 - 物理的にではなく、霊的にイエス様と交わることで、私たちもイエス様の弟子となることができる
 - 日々、新しいイエス様との出会いを体験し続ける
 - 信仰体験を風化させない
 - 私たちは、イエス様が今も私たちのうちに生きておられることの証人となる
 - イエス様のことを説明するのではない、証言するのである！
-

主は今、生きておられる
わが内におられる
すべては主のみ手にあり
明日も生きよう、主がおられる
